平成20年度 富里歴史講座　　於：富里市立図書館　　２００８・５・２５（日）

第1回「文字・活字・メッセージ ～市内発見の「守札」に見る江戸時代の信仰～」

元印旛郡市文化財センター調査研究員　林　田　利　之
富里市文化財審議会副委員長　木　原　律　子

１．富里初の「守札（もりふだ）」発見の経緯

「守札」が発見され旧鈴木家は富里市高野地区に所在しています（図１）。明治時代に戸長役場（江戸時代には名主に代表される村役人が、村民の法令遵守・上意下達・人別支配・土地の管理などの支配に関わる諸業務を下請けしていました。明治４年４月４日に新政府は「戸籍法」を制定し、同時にこれまでの町村役人を廃止して戸長・副戸長と改称し、従来の町村役人の事務を行なわせるという太政官布告を出します。そして戸長任命された人達には千葉県より辞令が発給された）であったことから大量の古文書が残されており、その一部は昭和５６年に刊行された『富里村史』にも掲載されています。

昨年７月、鈴木さんのお孫さんにあたる方がこのお宅をリフォームしてお住まいになられることになり、所蔵されている古文書類を市に寄贈してくださるとのお話があったことから、所蔵されている古文書の調査に伺うことになりました（図２～４）。

図１　高野地区の航空写真（白線で囲まれた部分がおおよその高野地区）

調査を開始するにあたり、まず聞き取りを行ったのですが、その際、リフォームが天井裏にまで及んでいることがわかりました。ここで木原さんより「天井裏に俵のようなものはありませんでしたか？」との問いが投げかけられ、「沢山ありました」とのお答えを頂いたことから、急遽、元々の調査対象であった古文書の調査を中止し、天井裏の状況を確認することとなったのです。予想外の展開であったことから十分な準備しておらず、天井裏の暗闇の中に浮かび上がる「守札」の納められた俵１４～１５個を確認して午前中の調査は終了となりました（図５・６）。これが富里市初の「守札」発見となったのです。

午後からは態勢を立て直し、「守札」を詳しく分析するために俵を天井裏から回収する作業を実施しました。気温の上昇に伴って天井裏は蒸し風呂状態。永年の埃と煤にまみれた俵との格闘は数時間に及びました。

図２　旧鈴木家門周辺

図３　調査風景１

※ 赤丸は「守札」の発見された概ねの位置

図４　調査風景２

図５　旧鈴木家間取り図